

「あたりまえ」を磨く

校長の向井畑です。今日から新学期が始まりました。子供たちは新しい教室に入り、新しい担任の先生、新しい友達と一緒にワクワク、ドキドキしながらスタートを切りました。今年度も「チーム平良小」を合言葉に教職員一同、子供たちの笑顔を守るために精一杯頑張りたいと思います。令和4年度のスタートに当たり、全教職員で以下のことを確認しました。

《学校教育目標》

「自ら学び みんなで高まる」

確かな学力：一人一人の学力向上（ICT、タブレットドリル、補充→自学）

豊かな心：あいさつ、返事、社会貢献

健やかな体：基本的生活習慣（感染症対策、朝食、就寝時刻）、立腰（体幹）

《教職員としての基本的な姿勢》

- 子供の未来や可能性を信じる。
- 上手くいかないことを子供のせいにはしない。
- 子供の成長に気づき、ともに喜ぶ。
- 同僚性を大切にする。
- 社会性を磨く。（挨拶、時間厳守、素直、向上心）

これらの目標を達成するために、昨年度より私が教職員や子供たちに繰り返し話していることがあります。それは「あたりまえ」という言葉についてです。私は「あたりまえ」には二つの種類があると思っています。

一つ目は、「挨拶をする」「宿題をする」「友達と仲良くする」などは「する」ことが「あたりまえ」のものです。

二つ目は、「授業中は勝手におしゃべりをしない」「廊下を走らない」「友達に意地悪をしない」など「しない」ことが「あたりまえ」のものです。

学校は集団で生活する場所です。みんなが気持ちよく、安心して、楽しく過ごすためには、この「あたりまえ」を増やしていくことが大切です。しかし、頭では「あたりまえ」と分かっている、自分の気持ちがコントロールできなかつたり、自分の「あたりまえ」と他人の「あたりまえ」が異なるためにトラブルになったりすることもあります。そんなときはどうすればいいか… 私は子供たちに「話し合う」ことを呼び掛けています。

これからの社会は、AIでは解決できない、人間にしかできない力を身に付けた人材が求められるようになっていきます。「考える力」「話し合う力」「協力する力」など、子供たちが予測困難な時代を生き抜くために必要な力の育成に取り組みます。一年間ご理解ご協力をお願いいたします。



令和4年4月8日 平良小学校長 向井畑 透